

# 近代の肖像

危機を拓く

第504回

## 「SENSEI」

小樽商科大学教授

荻野 富士夫

角田は「日本の歴史と問題」はゼミ的授業と「文学」を担当する。西洋文明と接触をもった日本た。受講者も増えてきたの民衆の文化的伝統をテーマに、英訳された文献「中国・日本学部」が創用いた。その後、「聖徳太子から復古神道まで

5科目を担当するようぶりを「美しいもの、敬に、実質的に日本研究・教育の主力となった。復員後、大学院に戻ったキーンさんらの求めて毎日2時間以上の「日本古典文学」の授業も行う。『平安文学を読みたい者』を指した。キーンさん

日本研究を主導する。1958年、長年にわたる角田の講義を骨格と活用され、2001年に「日本の伝統の源泉」が刊行された。学部生向公式に退任したのは19

53年、76歳の時だったが、キーンさんの休暇時には85歳という高齢で「古典文学読解」や「明治文学」を引き受けている。62年、コロンビア大学から「名誉文学博士号」が授与された。

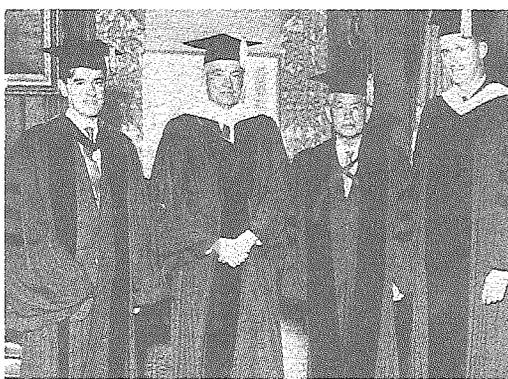
## 戦時中も教壇に立ち続ける

1931年3月、コロンビア大学は「日本文学」設立と同時に、日本語と日本文学部門の創設を表明し、「図書部主事」の角田柳作をその講師に任命する。東洋研究においてヨーロッパに比べて後れをとったアメリカでは、まず中国が対象になり、1930年頃から日本が対象になってきた。コロンビア大学でも中国

の日本の文化史」として、19世紀半ばまでの日本人の思想展開があつかわれた。次第に日本関係の授業科目も増え、角田の担当する「日本史の諸

に酷使されたが、それは日本が戦争に敗れて憂鬱な気分であった角田を「元気づけた」という。代はE・ライシャワー教子子の一人サイデン

は日本が戦争に敗れて憂鬱な気分であった角田を「元気づけた」という。代はE・ライシャワー教子子の一人サイデン



1962年、角田柳作はコロンビア大学から名誉文学博士号を授与された。右から2番目、左端は角田、左端はドナルド・キーン、右端はコロンビア大学C.V.スター

角田 柳作

②

3月24日に釈放され、再び教壇に立つ。毎年4、

## 日米開戦直後に拘留も3カ月で釈放

筆することに熱心ではなかった。